

## 米国情報技術(IT)セクター特集:①

## 成長を続けるITセクター:これまでの変遷と今後注目のテーマ(1/2)

## 成長を続けるITセクター:これまでの変遷

成長を続けるITセクターにおいて、業界の技術革新と共にその牽引役は大きく変わり、2000年以降の約15年間にも大きな変遷が見られました。そこで、これまでのITセクターの成長を支えた牽引役の変遷をまとめてみました。

## ①～2002年 TMT相場とブロードバンド革命

- ナスダック総合指数が史上最高値を付けた2000年3月前後は、インターネット企業、TMT(テレコム、メディア、テクノロジー)セクター、光ファイバー通信の関連銘柄が活況を示し、IT革命を演出しました。
- しかし、その後、ビジネスモデルの確立されていない多くのインターネット企業は、姿を消していく結果となりました。



グーグル (2004年上場)

## ②2003-2008年 インターネットの拡大、スマートフォンの登場

- 2003-2008年頃は、各市場において技術革新やM&Aなどによるプレイヤーの新陳代謝が起こりました。
- その中でも、後のインターネット業界のリーダーとなるグーグルの新規上場、スマートフォンの登場など、インターネット新時代を予感させる時期でもありました。

アップル (2007年iPhone発売)



フェイスブック (2012年上場)



## ③2009-2014年スマートフォン/クラウド隆盛～SNSへ

- 2009-2014年頃は、モバイル通信環境が大きく進展したことを受け、クラウド・コンピューティングが一気に拡大し始めました。クラウド技術をベースに、スマートフォンやタブレット端末が一気に普及期に入り、従来型携帯電話やPCを駆逐する流れが決定的となりました。
- また、インターネット・ユーザーは新興国へと広がり、SNSの存在感が飛躍的に高まりました。SNSプロバイダーは広告媒体としての価値を高めるとともに、収益性を急速に高めています。

アリババ (2014年上場)



## ナスダック総合指数の推移



## 米国情報技術(IT)セクター特集:①

## 成長を続けるITセクター:これまでの変遷と今後注目のテーマ(2/2)

## 今後の成長の牽引役として期待される注目テーマ

今後、ITセクターの成長の牽引役として期待される4つの注目テーマを取り上げてみました。この中には、IT業界のみならず、今後の私たちの生活を一変する可能性をもつ新たな技術革新も含まれており、今後の業界の動向に目が離せません。

## 注目テーマ!!①

## IoT(インターネット・オブ・シングス)

- 「IoT(インターネット・オブ・シングス、モノのインターネット)に現在大きな注目が集まっています。IoT時代の到来により、今後テクノロジー業界の勢力図や私たちの生活が劇的に変わるかもしれません。



IoTとは?

## 注目テーマ!!②

## 無線通信塔(タワー)

- モバイル端末の普及と通信速度の高速化に伴い、データ通信量の大幅増加、無線通信インフラの需要増が予想されます。
- そのなかで、無線通信(タワー)の運営企業はこれからも長期的な成長が見込める有望なセクターと捉えています。



タワー運営企業のビジネスモデル?

## 注目テーマ!!③

## Eコマース(ネットショッピング)

- インターネットやモバイル端末の普及によりEコマース市場が急速に拡大しています。その動きは先進国から新興国にまで広がってきています。
- 今年9月、Eコマース市場が急拡大している中国のアリババ・グループがニューヨーク取引所に上場し、史上最大規模のIPOを実現し注目を集めました。



## 注目テーマ!!④

## モバイル広告

- インターネットの普及は世界の広告市場にも構造変化をもたらしています。広告市場では、TVや新聞など伝統的広告媒体からオンラインへの移行が進んでいます。
- そのなかでも、SNSや携帯端末を通じたモバイル広告が市場を牽引しており、その比率は今後も増加すると見込まれています。



- 当社では、今後数週にわたり上記のテーマに着目したレポートを配信していく予定ですのでご期待ください。

本資料は、情報提供を目的としてゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント株式会社(以下「弊社」といいます。))が作成した資料であり、特定の金融商品の推奨(有価証券の取得の勧誘)を目的とするものではありません。本資料は、弊社が信頼できると判断した情報等に基づいて作成されていますが、弊社がその正確性・完全性を保証するものではありません。本資料に記載された過去のデータは、将来の結果を示唆あるいは保証するものではありません。本資料に記載された見解は情報提供を目的とするものであり、いかなる投資助言を提供するものではなく、また個別銘柄の購入・売却・保有等を推奨するものでもありません。記載された見解は資料作成時点のものであり、将来予告なしに変更する場合があります。個別企業あるいは個別銘柄についての言及は、当該個別銘柄の売却、購入または継続保有の推奨を目的とするものではありません。本資料において言及された証券について、将来の投資判断が必ずしも利益をもたらすとは限らず、また言及された証券のパフォーマンスと同様の投資成果を示唆あるいは保証するものではありません。本資料の一部または全部を、弊社の書面による事前承諾なく(1)複写、写真複写、あるいはその他いかなる手段において複製すること、あるいは(2)再配布することを禁じます。© 2014 Goldman Sachs. All rights reserved. <40268.OSF.OTU.>